

第3次筑西市総合計画 市の現状・課題整理

①現状確認

A. 時代の潮流・社会の動向（基礎調査）

- ① 人口減少・超高齢化社会への本格突入
 - ・「地方創生2.0基本構想」では、人口減少を正面から受け止めたうえでの施策展開を基本姿勢に位置付けている。
- ② 災害の激甚化・頻発化
 - ・地球温暖化対策を含め、環境問題に取り組んでいくことや、避けられない災害に対して防災・減災の取組を進めることが重要である。
- ③ ライフスタイルや価値観の多様化
 - ・様々な価値観、生活様式に対応することで、地域の一体感を高めるとともに、若い世代や幅広い人々に選ばれるまちづくりを進めすることが求められる。
- ④ デジタル化の進展
 - ・デジタル技術の進展は、リモートワーク等で人々の生活様式を変化させるとともに、分散型・自立型の社会構築を可能にする。
- ⑤ 地方創生2.0
 - ・「安心して働き、暮らせる地方の生活環境の創生」、「付加価値創出型の新しい地方経済の創生」、「人や企業の地方分散」、「新時代のインフラ整備とAI・デジタル等の新技术の徹底活用」、「広域リージョン連携」が政策の5本柱
- ⑥ 地球温暖化対策・SDGs
 - ・SDGsを義務的なものと捉えるのではなく、地域社会・経済の活性化につながる形で取組を行うことが重要である。

C. 市民意向（アンケート調査・ワークショップ）

- ① 定住意向
 - ・市民の58.8%が「現地域に定住」、3.0%が「市内別地域に移住」と回答しており、定住意欲は高い。
 - ・小・中学生では、「住みたい」が23.6%、「どちらかといえば住みたい」が25.4%と、大人よりも定住意欲は若干低くなっている。
- ② 重点を置くべき取り組み
 - ・「安全・安心」(1.28)、「健康・福祉」(1.23)、「環境」(1.14)の順^{*1}

*1 「重要(+2)」・「やや重要(+1)」・「あまり重要でない(-1)」・「重要ではない(-2)」としてポイントの平均を算出
- ③ 市の良いところ
 - ・「自然が豊か、農作物が豊富でおいしい」、「子育て支援が充実」、「近所の人とのつながりがある」、「お祭りや花火大会等のイベントが多い」等
- ④ 改善点
 - ・「子どもや若者が少ない」、「気軽に集まれる場所がない」、「公共交通機関が少なく不便」、「働く場・就業先が少ない」、「地域活動の担い手不足」等
- ⑤ 理想の未来像
 - ・「安心」「安全」「子ども・子育て」「自然」「笑顔」「住み続けたい」「人のつながり」「元気」「多世代共生」「豊かな暮らし」「幸せ」「働きやすさ」等

B. 市の特性（各調査、統計データ等）

	筑西市の強み	筑西市の弱み
人口	<ul style="list-style-type: none"> ・社会減は2000年代後半ごろから縮小傾向にあり、直近では社会増に転じている。 ・2018-2022年期の合計特殊出生率は1.35であり、全国平均よりは高い値で推移 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口は1995年をピークに減少に転じている。 ・2002年以降自然減が継続、拡大傾向 ・2050年には老人人口と生産年齢人口が同程度になると推計
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・産業別売上高の構成比では、建設業、製造業、運輸・郵便業の割合が比較的高い。 ・農業の売上高は、2012年の約36億円から、2021年には56億円と増加が続いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2012年から2021年にかけて、企業数は13%、事業所数は9%、従業者数は7%減少 ・産業別売上高の構成比では、医療・福祉は全国平均・県平均を下回っている。
交通	<ul style="list-style-type: none"> ・市道の改良率が着々と伸びている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関の本数が少なく不便
居住・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・公害苦情発生件数は2020年以降減少を続けている。 ・下水道の普及率が着々と伸びている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家が多くなっている。 ・若者が遊べる、集まれる場所が少ない。
自然・文化	<ul style="list-style-type: none"> ・自然が豊かで、農作物が豊富でおいしい。 ・伝統的な祭りや文化行事が地域に根付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財指定は全国増、市内は横ばい。 ・自然や文化資源の発信・活用が弱い。

D. 将来人口予測 ※2020年国勢調査ベースで試算

- 少子高齢化は進み、2050年の人口は67,207人と推計される。

人口推計結果	2020年	2030年	2040年	2050年
人口（全体）	100,753	90,475	78,902	67,207
0~14歳人口	11,057	7,737	6,249	5,133
15~64歳人口	57,559	50,486	40,294	31,570
65歳以上人口	32,137	32,252	32,359	30,504
0~14歳人口比率	11.0%	8.6%	7.9%	7.6%
15~64歳人口比率	57.1%	55.8%	51.1%	47.0%
65歳以上人口比率	31.9%	35.6%	41.0%	45.4%

②市の主要課題

1. 少子高齢化・人口減少への対応

- 人口減少への対策を進めるとともに、生産年齢人口が減少し、老人人口と同程度になることを前提とした社会の仕組みづくりが必要である。
- 子育て世帯の働き方に応じたニーズを的確にとらえ、多様な子育て支援に取り組んでいくことが必要である。
- 高齢者がいつまでも元気に働ける環境整備と社会的支援が必要である。

2. 若者に選ばれるまちづくり・経済成長

- 若者にとって就学や就労の場が不足しているため、若い世代の就労・雇用確保や、仕事と子育ての両立、余暇を含めた居場所づくりが必要である。
- 市経済の成長に向けては、企業数・事業所数の確保や、消費の場の創出が必要である。
- デジタル技術の導入やIT人材の育成等、地域産業の活性化が必要である。

3. まちの魅力発信と定住人口確保

- 本市の大きな「強み」である豊かな自然環境に着目し、人を呼び込む戦略が必要である。
- まちづくりと公共交通を一体的に推進し、暮らしやすい都市のイメージを確立して魅力を発信していくことが必要である。
- リモートワーク等の新しい働き方や生活様式を好機とらえ、ニーズに応じた取組が必要である。

4. 安全・安心のまちづくり

- 災害対応力の強化や老朽インフラの整備・長寿命化による安全な生活環境の確保が必要である。
- 進行する高齢化社会を見据え、医療・福祉サービスの維持・充実が必要である。

5. 地域連携の強化と人材育成・教育の充実

- 人口減少時代を見据えた地域づくり、「共助」の仕組みづくりの積極的な展開が必要である。
- 地域活動を支える担い手と交流の場の確保、地域資源を活用できる人材育成が必要である。